

令和7年度〔自己評価報告書〕

| | | |
|------|------------|------|
| 学校番号 | 学校名 | 校長名 |
| 240 | 川崎市立中野島中学校 | 越 有里 |

| 学校教育目標 | 今年度の重点目標 |
|---|---|
| ○心の健康な中学生: 自主自律の心を持ち、心豊かで思いやりのある生徒 ○体の健康な中学生: 健康と安全の習慣を身につけ、体力の増進をめざす生徒 ○教養豊かな中学生: 基礎学力を身に付け、真理を愛し、向上心に富む生徒 | ○わかる授業の実践、生徒理解に基づく個に応じた指導・支援の充実 ○思いやりの心、感動する心を育成する生徒活動の活性化 ○地域と連携した「開かれた学校づくり」の推進 |

| 評価項目 | 具体的な取組 | 成果と課題 | 具体的な改善策 |
|----------------|--|--|---|
| 1 教育課程・学習指導 | 学習のねらいを明確にし、生徒と共有、振り返りから課題に自ら気づき、次の学習につなぐPDCAサイクルを意識した授業づくりを実践した。適切な学習評価を実施し、主体的で深い学びにつながる指導・支援を行った。GIGA端末を有効活用することで学び方や機会を工夫し、各教科の資質・能力の育成に努めた。 | 学習のねらいを生徒と共有することで、自ら見通しを立て学習に取り組む主体的な学びにつながった。より深い学びにつながるように、形成的評価の在り方について研修を進める必要がある。GIGA端末を積極的に活用し、学びを生徒同士が共有する様子が見られた。各自の目標に沿った活用をより推進していく必要がある。 | 学習評価の在り方について研修を深め、資質・能力の育成につながる学習評価を実践していく。PDCAサイクルの学習活動が展開されるように、指導者の教材理解・研究を推進し、授業改善に努める。GIGA端末をいつでもどこでも学習に活用できるように、活用場を広げていく。 |
| 2 生徒指導・生徒理解 | 日常の教育活動全てが教育相談そのものと捉え推奨するとともに、教育相談期間を設定し、十分な生徒理解に努めた。生徒の安全・安心・安定を最優先とし、いじめを絶対に許さない学校環境づくりに努めた。学校生活や登下校の安全を図るため、地域での過ごし方や学校生活について自ら振り返る機会を定期的に促した。 | 支援教育部会を中心に職員研修や会議等で、教育相談の推進、生徒理解に基づいた指導が行われるよう共通理解を図った。支援COやスクールカウンセラーと連携することで支援が必要な生徒の状況を把握し、重大事案の未然防止や不登校等支援が必要な生徒への適切な対応につなげることができた。 | 主任会、支援教育部会を定期的に開催し、支援CO、スクールカウンセラーとの情報交換、支援が必要な生徒の把握、関係職員との早期連携を図っていく。「いじめ」を認知した際は重大事案と捉え、生徒の気持ちに十分配慮し、家庭と連携した対応を行う。いじめの未然防止のために、教育相談活動の一層の充実を図っていく。 |
| 3 支援教育 | 担任、支援COを中心に生徒の状況や教育へのニーズを把握し、合理的配慮の在り方を考え、きめ細やかな支援教育の在り方を探った。不登校生徒へ登校支援や学習支援等、必要な支援を考え、別室対応やGIGA端末を活用した学習など個々の状況に応じた支援を行った。関係機関との連携を深め多方面からの支援を検討した。 | 支援COを中心に担任、学年と連携し、特別な支援が必要な生徒の教育的ニーズを把握することができた。教員や教育サポーターの配置し、GIGA端末で授業配信の視聴や「すらら」等アプリを活用した学習など、生徒のニーズに応じて継続的な学習を実施することができた。今後は支援を必要とする生徒増加が懸念される。 | 生徒の状況やニーズに対応した支援体制の継続的な確立に向け、教員の確保や教育サポーターの確保および教室の増加を図ってきたい。また、別室登校している生徒のコミュニケーション力の向上、所属意識の向上のため、別室独自のプログラムによるイベント的取組を継続的に実施していきたい。 |
| 4 キャリア在り方生き方教育 | 本校のキャリア教育の柱として、全校で「コミュニケーション能力の育成と向上」をねらいとした落語家さんによる講演会を実施した。2年生で地域の教育力を生かし、地域の企業を中心に職場体験学習を実施し、働く意義について考えた。各学年のテーマに沿った探究学習を総合的な学習に時間で行い、将来の生き方を考えた。 | 落語家さんによる講演会は、各学年の実態に合わせた内容で、コミュニケーション能力の育成に大変効果大きい。学びの成果は、3年生時にあらゆる活動場面で発揮されている。職場体験学習は、地域のあたたかさに触れ、自分も地域の一人であることを再認識しながら働く意義を考え、将来の職業選択を考える手立てとなった。 | コミュニケーション能力は、生徒の将来に必要な不可欠な資質・能力であり、これからさらに向上させていくことが大切であるとする。そのため、3年間継続した講演会は今後も実施していく。また、地域に根差した職場体験学習は、地域を見つめ、愛する心の育成につながっていくため、関係諸機関と連携した取組は今後も継続していく。 |
| 5 人権教育 | 「個性を認め合い、よりよい人間関係を構築できる生徒の育成」を目指した。多様な価値観、ハンディキャップについて正しい知識を持ち、互いに認め合い、ともに生きていこうとする態度を育成するため、教育活動全般を通して指導・支援を行った。講演会を通して、困難にも前向きに乗り越えていこうとする心の強さの育成を図った。 | 岩崎由純氏による「ペップトーク」講演会では、考える視点の多様性、考え方を前向きに転換する方法を学び、あきらめず、困難さえ乗り越えようとする心の育成につながった。学校行事や学級活動で多様な価値観に触れ、互いの意見を理解したうえで合意形成を図ろうとする態度が見られた。より広い視野で学び続ける必要がある。 | より広い視点から多様な価値観を認め尊重でき、困難を成長の機会と捉え、自分を大切にできる生徒を育成していくため、教育活動全般で継続的な指導・支援を行っていく。ハンディキャップをもっていたり、多様な性があったりすることについて正しく学び、差別や偏見のない社会を実現しようとする態度を育成していく。 |
| 6 健康・安全教育 | 各学年ごとに健康教育で熱中症予防、薬物乱用防止、性教育など正しい知識を身に付け、自ら健康管理ができる力の育成を図った。学校給食を中心とした食育推進は、給食だよりを通じて家庭へも情報発信を行っている。災害時の自助訓練と防災意識の向上のため、毎月のシェイクアウト訓練、年3回の避難訓練を実施した。 | 健康管理の重要性や熱中症・AED・アレルギー対応などについて、研修で正しい知識を身に付け、指導を行った。生徒の薬物乱用防止教室、性教育は講師を招いて実施し、心身を大切にしていこう意識向上につなげた。毎月のシェイクアウト訓練は定着し、放送と同時に身を守る行動が見られ、災害時の自助意識の向上が図れた。 | 日常の健康管理の重要性を食育と合わせて、指導を継続的に行っていく。睡眠やスマートフォン等による心身への影響は昨今問題視されており、生徒自らコントロールできる力を身に付けさせたい。避難行動時の注意事項、防災に対する心構えは継続して注意喚起をしていく。学校周辺の危険箇所についての確認していきたい。 |
| 7 職員研修 | 年度当初から年間を通じて、生徒理解研修、食育・給食指導研修、AED研修、体罰防止研修、いじめ防止研修等、教員としての資質向上を図った。また、学習評価研修、SYENを活用した全国学力学習状況調査分析から学習指導の振り返り、道徳、総合的な学習の時間の授業研究会から、授業改善・授業力向上を図った。 | 年度当初に個々の生徒の状況を共通理解のし、指導・支援体制をとれたことは有効であった。年間を通じて計画的に職員研修を実施したことで、意識改善につながった。学習状況調査の結果分析は課題が残った。わかる授業の実践のため、教員が授業づくりに専念できる時間の確保と合わせて、授業改善を継続して行っていく。 | 様々な校内研修を年間を通して計画し、教職員の指導力、授業力、資質・能力の向上を図る。生徒一人一人の課題に寄り添い、安心できる相談活動をもとに、生徒理解にさらに努め、心身が健康な生徒の育成を目指していく。校内OJTをより充実させ、教職員の資質向上、授業改善を積極的に推進していく。 |
| 8 組織運営 | 主任会、学年会、分掌部会を定期的に開催し、それぞれの学年、分掌の特長を生かした組織運営を図った。教職員が一人で抱え込まず、組織として対応できるように、風通しのよい職場環境づくりに努めた。教職員がゆとりをもって生徒に対応できるように、働き方・仕事の進め方改革の推進について全教職員で工夫を考えた。 | 学校として統一すべき事項については随時確認し、各組織の特長を生かした運営を行った。教職員が、それぞれの組織の中で能力を発揮できる機会を設定することができた。働いて方・仕事の進め方改革の推進のため、生徒活動を活性化させながら、余剰時間を生み出す工夫を全教職員で考え、実践し、改善を考えた。 | 教職員が心のゆとりをもって生徒に対応できるように、働き方・仕事の進め方改革を一層推進する。生徒活動の活性化を図りながら、教育課程、時程の見直し、業務のDX化を進めていく。各組織の主任がリーダーシップをとり、教職員の能力が生かされるように、実践・見直し・改善をしながら組織の活性化を図る。 |
| 9 保護者・地域等との連携 | 地域教育会議のふれあいまつり、社会福祉法人「はぐるま」で演奏を披露する機会を得たり、中野島社会福祉協議会の「赤い羽根募金」に参加したりと、地域とともに活動する機会を得た。PTAの協力を得て学校行事を運営することができた。教育活動の様子は学校だより等を学区内10か所の地域掲示板、学校HPに掲載し発信した。 | 地域と連携し発表の機会を得たことは、地域の方々に教育活動の成果を見ていただけた機会となったと同時に、あたたかい励ましの声が生徒の自信につながった。学校HPは随時更新を行ったが、地域掲示板の更新が滞ることがあり、情報発信が十分ではなかった。学校行事はPTAの協力で、大変円滑に運営することができた。 | 学校行事の様子や成果をより地域に発信する工夫を検討していく。地域教育会議、社会福祉協議会等、地域の諸機関を連携し、地域と共にある学校としてどのような活動ができるかを考え、地域貢献を図ってきたい。学校行事は、PTA、保護者と連携しながら運営を図ってきたい。 |
| 10 その他 | 「生徒が大好きな中中、保護者に信頼される中中、地域に愛される中中」を目指して、生徒にとって何がよいのかを大切にしたい視点の学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を年3回実施した。主権者教育の一環として、多摩区選挙管理委員会の協力を得て実際の投票箱を利用して生徒会選挙を行った。 | 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)では、学校運営計画、学校予算、生徒の活動、学校評価等についての報告、生徒との意見交換から様々なご意見をいただき、学校運営に生かした。生徒会役員選挙を実際の投票箱を利用して、実在の選挙に近い形で実施したことは、生徒の主権者として意識を高めることにつながった。 | 地域に開かれた学校として、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)で出たご意見をさらに具体化し、学校運営に反映させていく。特に、生徒が達成感を感じ、中学校の思い出として印象に強く残る学校行事については、すべての生徒が参加できる平日開催を検討していく。今後も積極的に地域と共に学校づくりに取り組んでいく。 |

| 学校関係者の評価 | 学校運営のまとめ |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒にとって何がよいのか」を視点として大切にしたい学校運営を考え、工夫した取組を行っている。 ・将来を見通して、生きていくために必要な資質・能力の育成に取り組んでいる。特に、「コミュニケーション能力の向上」をねらいとした落語家さんによる講演会は、教科書では学べない生きた教材として大変有効である。また、地域を中心とした職場体験学習は、将来へ向けた職業の知識を広げ深め、職業選択に生かせる学習となるとともに、地域を大切に思う心の育成にもつながり効果的である。地域連携の取組は、今後とも継続していくことが望ましい。 ・生徒の居場所づくりの視点からも、わかる授業の実践は大切である。多様な生徒がいるため、教員の授業力向上、支援教育の充実は、今後はさらに重要となっていく。価値観や教育的ニーズがさらに多様化していくことも考えられるため、学び方やGIGA端末の有効活用方法の工夫も必要になってくる。 | <p>学校教育目標の実現のため、今年度の重点目標である「わかる授業の実践」「生徒理解に基づく個に応じた指導」「支援の充実」「生徒活動の活性化」「地域と連携した開かれた学校づくり」の達成に向け、取り組んできた。それぞれにおいて、一定の成果を感じることはできたが、新たな課題を発見したことが多い。生徒の実態は毎年変化していくため、「わかる授業」を作っていくためには、生徒それぞれが教育的ニーズをもっているという視点をもって生徒理解、教材研究を進めていく必要がある。また、学習状況調査結果などの資料をもとに客観的に授業を見直し、改善していく工夫が必要と感じる。生徒共に考え、力を育成していただくため、生徒理解をし積極的に生徒指導が大切である。そのために、日常の関りを大切に、教育相談の充実を図ってきたい。生徒とまっすぐ向き合う、授業をじっくりと考える、生徒活動を活性化させるために必要な時間の確保をする、働き方・仕事の進め方改革を推進していきたい。また、学校運営協議会での意見を学校運営に反映させ、「地域と共に歩む学校」として、地域貢献や連携を積極的に図ってきたい。地域の一人としての学校の在り方を探り、開かれた学校づくりをさらに推進していきたい。安心・安全で、生徒も教職員も保護者も地域も大好きな中野島中学校であるために、これからも教職員、地域一丸となって取り組んでいきたい。</p> |